

受身表現

1. 受身表現とは

能動文を為す動詞を原動詞と呼ぶとすると、原動詞に受身の派生接辞を付した受身形を述語とし、原動詞で表される動作の被り手（受影者）である名詞句を主語（主格）とするのが、日本語の受身文である。

日本語記述文法研究会（編）（2009：215-218）は、日本語の受身文の構文的なタイプを、何を主語として表現するかによって3つに大別している。

- ・直接受身文：対応する能動文の補語の表す人や物を主語として表現する受身文
 - (1) 鈴木が佐藤に殴られた。（←佐藤が鈴木を殴った。）
 - (2) 私は鈴木さんに話しかけられた。（←鈴木さんが私に話しかけた。）
- ・間接受身文：対応する能動文に含まれていなかった人物を主語として表現する受身文
 - (3) 私は買い物の途中で雨に降られた。（←雨が降った。）
- ・持ち主の受身文：対応する能動文の補語として表される物の持ち主を主語として表現する受身文
 - (4) 田中が佐藤に肩をこづかれた。（←佐藤が田中の肩をこづいた。）

間接受身文は、能動文に対して項が一つ増えるもので、「主語の表す人物がその事態に巻き込まれることで迷惑を感じているという意味をもつのが一般的である」（日本語記述文法研究会（編）2009：236）ことから「迷惑受身」（はた迷惑の受身）と称されることもある。また、能動文に対して項が一つ増えるという点では、持ち主の受身文も同様であるので、これを間接受身文の下位類として扱う場合もある。

以上は有情主語の受身文であるが、志波（2025）は非情主語の受身文も含めて、日本語の受身構文を以下のように分類している。

表1 受身構文の分類（志波 2025：p.61 の図1 より）

受身構文	受影受身 (有情主語)	直接対象「(私は) 聡一郎に褒められた」 あいての受身「聡二郎に掃除を頼まれた」 持ち主の受身「三郎に服を汚された」 第三者（はた迷惑）「子供に変な歌を覚えられた」
	中立受身 (非情主語)	事態実現受身「机が外に運び出された」 状態受身「階段に絵が飾られていた」

志波（2025）は、「受影受身と中立受身は、ヴォイスの別の体系にあるものであ」って、「受影受身は「視点の転換」に関わる構文であり、中立受身は「自動詞化」に関わる構文である」と述べている（志波 2025：61）。すなわち、日本語においては、受影者の立場（視点）で事態を描き出す有情主語の受身文こそが「典型的な受身文」であり、非情主語の受身文は自動詞構文の語彙的な「穴」を埋める機能をもつ「周辺的な受身文」とみなせる。

ここで、受身文の関連表現として、受益表現のテモラウ文を取り上げておく。テモラウ文は、受身文と同様の格関係の構文をとり得るため、受身文とテモラウ文は同一の事態を表す表現として選択関係が生じる場合がある。特に受益性が明らかな事態である場合には、受身文を使用すると不自然になり、受益性を明示するテモラウ文を選択することになる。

- (5) 太郎が〔動作対象〕次郎に〔動作主〕ほめられた。
 (6) 太郎が〔受益者〕次郎に〔与益者(動作主)〕ほめてもらった。
 (7) 私は次郎にカメラの使い方を {?教えられた/教えてもらった}。

2. 受身表現の歴史

現代語(共通語)の受身形の派生接辞は、「(ラ)レル」(一段型活用)であり、古代語の「(ラ)ル」(二段型活用)を直接の由来としている。また、上代には「(ラ)ユ」(二段型活用)の形があったことが知られている。

現代語(共通語)の(ラ)レル文は、受身、自発、可能、尊敬の用法をもつが、古代語の(ラ)ユ文、(ラ)ル文においては、受身、自発の用法が古く、可能、尊敬の用法は後発的なものと言われている。自発用法は可能用法の発達により使用できる動詞の範囲が狭まる一方で、非意図性の表現として「テシマウ」が現れ(吉田 2021)、可能用法と尊敬用法も併用される別の表現形式が存在してきたのに対し、受身用法については、古代語から現代語まで「(ラ)ユ」、「(ラ)ル」、「(ラ)レル」の固有の用法として維持されてきた。ただし、これらの接辞で表される受身文の意味的、構文的性格には、歴史的な変遷がみられる。

まず、1で示した受身文の構文的なタイプの古代語での使用状況について、川村(2012)は、「間接受身文は古代語和文に存在する」が、「それらの間接受身文の多くは、主語者が文に述べられた物理的動きを直接被ったり、心理的態度等の対象となっているもの、あるいは主語者の所有物・関係者が動作対象となるものであり、「明らかに〈はた迷惑〉を表すと言えるものは上代には見出しがたく、中古でも、知覚行為によるものを除けば限られたものしかない」と述べている(川村 2012:147)。

これを受け、山口(2018)は、間接受身文の下位類として①他動詞の受身(持ち主の受身、関係事物の受身、競合の受身)と②自動詞の受身(第三者の受身)を設け、「当事者の受身」である直接受身と①は古代語から存在するのに対し、「非当事者の受身」である②は近世以降に出現したものであることを示している。また、②が出現した近世期に先んじて、受益表現のテモラウ文が成立していたことをふまえ、「受益専用形のテモラウが発達したことによって、それまで受益・受害に関わらず事態当事者間の広義の受影関係を表していた受身文が、受害構文として傾斜・確立していったことは十分に考え得る」と述べている(山口 2018:107)。

次に、非情主語の受身について、志波(2022)は、「近世以前の日本語の中心的な受身は有情主語の受身で、行為者が二格表示され、「影響を身に受ける」という意味があるものに対して、近代以降に欧文翻訳の影響で広まった非情主語の受身は、特別な意味がなく、行為者は現れないが、表示される場合はニヨツテが用いられる」と述べている(志波 2022:2)。

川村(2012)は、「非情物主語かつ《行為者》ニ表示」の受身文について、①〈被影響〉が認められるタイプとして①-1擬人化タイプと①-2「潜在的受影者」タイプ、②〈被影響〉が認められないタイプとして②-1「発生状況描写」タイプ、②-2「属性叙述受動文」タイプ、②-3《行為者》不特定タイプをあげたうえで、①と②-1はいずれも古代語から使用がみられる固有の受身であり、②-2と②-3は近世以前にはみられない非固有の受身であると述べている(川村 2012:60-69)。「属性叙述受動文」とは益岡隆史氏の用語(益岡 1987など)で、益岡(2000)では、受動文を事象叙述受動文と属性叙述受動文に大別し、事象叙述受動文の下位類として受影受動文と降格受動文を位置づけ、降格受動文を結果継続を表す静的なもの、動的なものに分けている。

以上の山口(2018)、川村(2012)、益岡(2000)の用語と記述をふまえて受身文の歴史的変遷を整理すると、おおむね表2のようになる。

表2 受身文の歴史的変遷

主語	受身文のタイプ		中古	近世	近代以降	
有情	受影受動文	当事者の受身	直接受身	○	○	○
			持ち主の受身	○	○	○
			関係事物の受身	○	○	○
			競合の受身	○	○	○
		非当事者の受身	第三者の受身	×	○	○
非情		擬人化タイプ		○	○	○
		「潜在的受影者」タイプ		○	×	○
		降格受動文(静的)	「発生状況描写」タイプ	○	×	○
		属性叙述受動文	「属性叙述受動文」タイプ	×	×	○
		降格受動文(動的)	《行為者》不特定タイプ	×	×	○

3. 諸方言の受身表現および関連表現

諸方言の受身文の特徴を記述するにあたっては、受身形の接辞の形態的な特徴に加えて、間接受身文の有無、非情主語の受身文の定着度、相手(間接対象)を主語とする直接受身文の有無などに留意する必要がある。また、ある事態をどのようなヴォイス構文で表現するのか(能動文、受身文、使役文、テモラウ文の選択)という観点での方言差の観察も有効であろう。

3.1 (ラ)レル系

諸方言の受身形の接辞は、(ラ)レル系によるものが全方言に行き渡っている(図1参照)。多段型動詞には基幹ア段形に「レル」、一段型動詞には基幹に「ラレル」が付く。(ラ)レル系の受身形は一段型(もしくは二段型)動詞に準じた活用をする。

3.2 間接受身文の有無

受身文の構文的なタイプでは、直接受身文は全方言に存在するが、間接受身文の定着度には方言差があるとみられ、琉球方言では間接受身文が使用されにくいとの報告がある。

當山(2014:23-24)は、首里方言の沖縄芝居のなかに、間接受身文とみられる用例が一例のみみられたとして(8)の例をあげたうえで、「第三者主語の受動文は、首里方言においてはやはりふつうの構文ではない」として、同じ場面のなかの、同じ話者による(9)の例もあげている。

(8) hjakufo:'inagu-nu natfe:ru kkwa=nkai ?atusari:fijaka, jinufi=du mafijaru.
 百姓女が 生んだ 子=に 跡をつがれるより、死んだ方がましです。

(9) kunu 'juifo ?aru ?itfigufikunu ?i:gara hjakufo:'inagunu natferu
 この 由緒 ある 池城の 家柄を 百姓女が 産んだ
 kkwa=nkai fimi:ru kutu: ikanafin naran.
 子=に つがせる ことは 絶対に いけません。

下地(2018:280)は、伊良部島方言の受身文について、「直接受動と違い、間接受動を自然談話に見つけることはできなかった。」とし、日本語の間接受身文「俺は雨に降られた。」を訳出してもらった「ba=a ami=n-du ff-ai-tar.」について、「ほとんどの話者は、上記の文を不自然であると言う。例えば以下のような文のほうがより自然であると言う。」として、「ami=a ff-i-i daizi=du a-tar. (雨が降って大変だった。)」という例文をあげている。

国立国語研究所(編)『方言文法全国地図』(GAJ)116図「留守のときに来られるとこまる」の下線部分について、基本形の「来る」や「来る」の尊敬語形、「来てもらう」に相当する形式を回

答する地点が、琉球諸島以外にも少なからずみられるが、これも「来る」のような自動詞の受身文(間接受身文)を避けて、能動文やテモラウ文を選択する方言があることを示唆している(図2参照、日高2002)。

3.3 話し手を動作主(非主語)とする受身文

共通語では、話し手が関与する事態の主語は一人称であるのが自然であり、受身文の主語が一人称以外であるとかかなり不自然になる(久野1978等)。

- (10) a. 私は鈴木さんをほめた。(能動文)
 b. ??鈴木さんは私にほめられた。(受身文)
 (11) a. ?鈴木さんは私をほめた。(能動文)
 b. 私は鈴木さんにほめられた。(受身文)

一方、九州・琉球地方を中心に、特定の文脈で成立する話し手を動作主(非主語)とする受身文が報告されている。

まず、松岡(2024)は、福岡県柳川市方言の例として(12)、宮崎県椎葉村尾前方言の例として(13)をあげている。

- (12) ori{kara/?ni} kuraseraruzzo. (殴るぞ。(直訳:私に殴られるぞ。))
 (13) kokee kitara zettai orekara korosaruzzo. ((文脈:畑に侵入しようとしているマムシに対する脅しとして)ここに来たら殺すぞ。(直訳:私に殺されるぞ。))

また、瀬戸口(1987:103)は、鹿児島県指宿郡山川町徳光方言の記述のなかで、次のような例をあげている。

- (14) ワイガ ウダユツ ドネー。(おまえが打たれるぞ(おまえをたたくぞ。))
 (15) ワー タダガユツ ド。ギオ ヒッカーソレバ。(おまえはたたかれるぞ(おまえをたたくぞ)。文句を言っていたら。)

内間(1994:393)は、沖縄本部町瀬底方言についての記述のなかで、受身の助動詞「リーン(れる)」の用法として以下の例をあげている。

- (16) タックルサリーンロー (なぐられるぞ。なぐるぞの意)
 (17) ミジ ハキラリーミ (水をかけられるか。水をぶっかけようかの意)
 (18) ヒササイ キラリーミ (足で蹴られるか。足で蹴るぞの意)

以下は、真田・友定(編)(2011)の例である。北海道に1例あるが、九州方言の例が多い。

- (19) おめー なに 偉そなごど 言ってるんだ。ただがれんだぞ。(北海道海岸部:4)
 (20) なんばこーかつとーとか、きさん。ぼてくりこかさる一ぞ。(福岡県:172)
 (21) ちゃーがぶん_にせろ こりゃ。くらさるっぞ。(いいかげんにしろ、こら。やってやるぞ)(佐賀県:178)
 (22) うたるっぞ。ぬしゃ。(ぶん殴るぞ、この野郎)(熊本県:186)
 (23) たたかるど。(たたきのめすぞ)(大分県中部:191)
 (24) わりゃ 偉ぶんなよ たたかるっど。(宮崎県:195)

3.4 テモラウ文

先にみたGAJ116図でテモラウ文が選択可能なのは、テモラウ文が項が一つ増える構文(使役文や間接受身文と共通する構文)での使用が可能だからであるが、テモラウ文は直接受身文と共通する構文でも使用可能である。共通語のように、受身文とテモラウ文が選択可能な方言では、受身文は迷惑性のある事態を表し、テモラウ文は恩恵性の事態を表すが、テモラウ文やそれに相当

する受納動詞の補助動詞構文が発達していない方言では、受身文が恩恵性のある事態においても使用される場合がある（日高 2007）。

- (25) キョー ナントカステ ミンナニ スケラッテート オモッテキタンダ（今日、何とかしてみんなに手伝ってもらいたい [cf. ?手伝われたい] と思って来たんだ。）（1879 生まれ・男性・宮城県宮城郡根白石村『全国方言資料 1』：157）
- (26) コナエダ スケラレモシテ トンナ オショーシナ（この間は手伝ってもらいまして [cf. ?手伝われまして]、たいそうありがとうございました。）（1891 生まれ・女性・山形県南置賜郡三沢村『全国方言資料 1』：228）
- (27) オー イー コ モラッテ コレ マー ミンナニ ヨロコバレテバカリ モー。（ああ、いい娘をもらって、これは、まあ、みんなによるこんでいただいて [cf. ?喜ばれて] ばかりですよ、もう。）（1885 生まれ・男性・東京都三宅村坪田『全国方言資料 7』：176）
- (28) ヤドモトサネー ソン オコゴオ(※) スクーヅテナー（中略）ソコデ ホシテ モロータル イッテ モロータルシテー ソーヒテ マタ ソルオ ウラッテカルオコゴ デージャ チューツ デヨーツナー（宿元にね、おこごをすくって行ってね。そこで干してもらったり、選別してもらったりして、そうしてまたそれを売ってもらって [cf. ?売られて] から、「おこごでえ」だといって、集まったものでしたねえ。）※「おこご」とは、海岸の岩についている「カイラ」（ふのりの原料で、土地では「おご」という）をかきとるとき、とりそこなって海面に浮いたもの。（1892 生まれ・女性・長崎県上県郡上対馬町鰐浦『全国方言資料 9』：161）

参考文献

- 内間直仁（1994）『琉球方言助詞と表現の研究』武蔵野書院
- 川村大（2012）『ラル形述語文の研究』くろしお出版
- 久野暉（1978）『談話の文法』大修館書店
- 真田信治・友定賢治（編）（2011）『県別罵詈雑言辞典』東京堂出版
- 志波彩子（2022）「日本語学における受身構文」庵功雄（編）『日本語受身文の新しい捉え方』くろしお出版
- 志波彩子（2025）「現代日本語のヴォイスにおける 2 つの体系：視点の転換と自動詞化・他動詞化」『東アジア国際言語研究』7、東アジア国際言語学会
- 下地理則（2018）『シリーズ記述文法 1 南琉球宮古語伊良部島方言』くろしお出版
- 瀬戸口俊治（1987）「鹿児島県指宿郡山川町徳光方言の方言表現法」『南九州方言の研究』和泉書院
- 當山奈那（2014）「首里方言における受動文の意味構造とベネファクティブ」『国際琉球沖縄論集』3
- 日本語記述文法研究会（編）（2009）『現代日本語文法 2』くろしお出版
- 日高水穂（2002）「ヴォイス（受動文を中心に）」大西拓一郎編『方言文法調査ガイドブック』科研費報告書
- 日高水穂（2007）『授受動詞の対照方言学的研究』ひつじ書房
- 益岡隆史（1987）「受動表現の意味分析」『命題の文法—日本語文法序説—』くろしお出版
- 益岡隆史（2000）「叙述の類型から見た受動文」『日本語文法の諸相』くろしお出版
- 松岡葵（2024）「福岡県柳川市方言の記述研究」九州大学博士論文
- 山口響史（2018）「近世を中心とした受身文の歴史—非当事者の受身の発達とその位置づけ—」『日本語文法』18-2、日本語文法学会
- 吉田永弘（2021）「「可能」「自発」の歴史的対照—「る・らる」と「可能動詞・られる」—」『日本語の歴史的対照文法』和泉書院

（日高水穂）

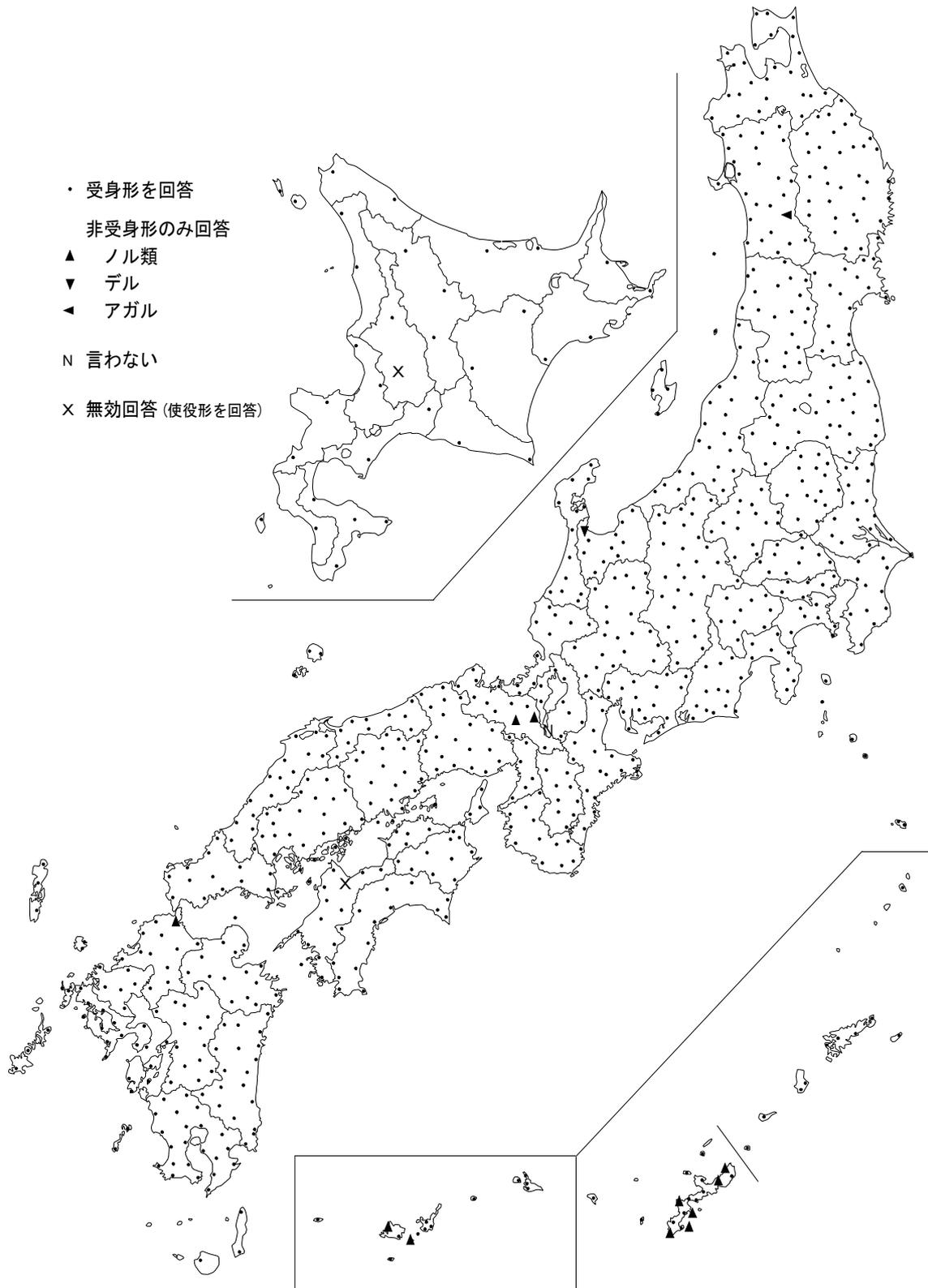


図1 GAJ115 図「悪いことをすると新聞に書かれる」(日高 2002: 48)

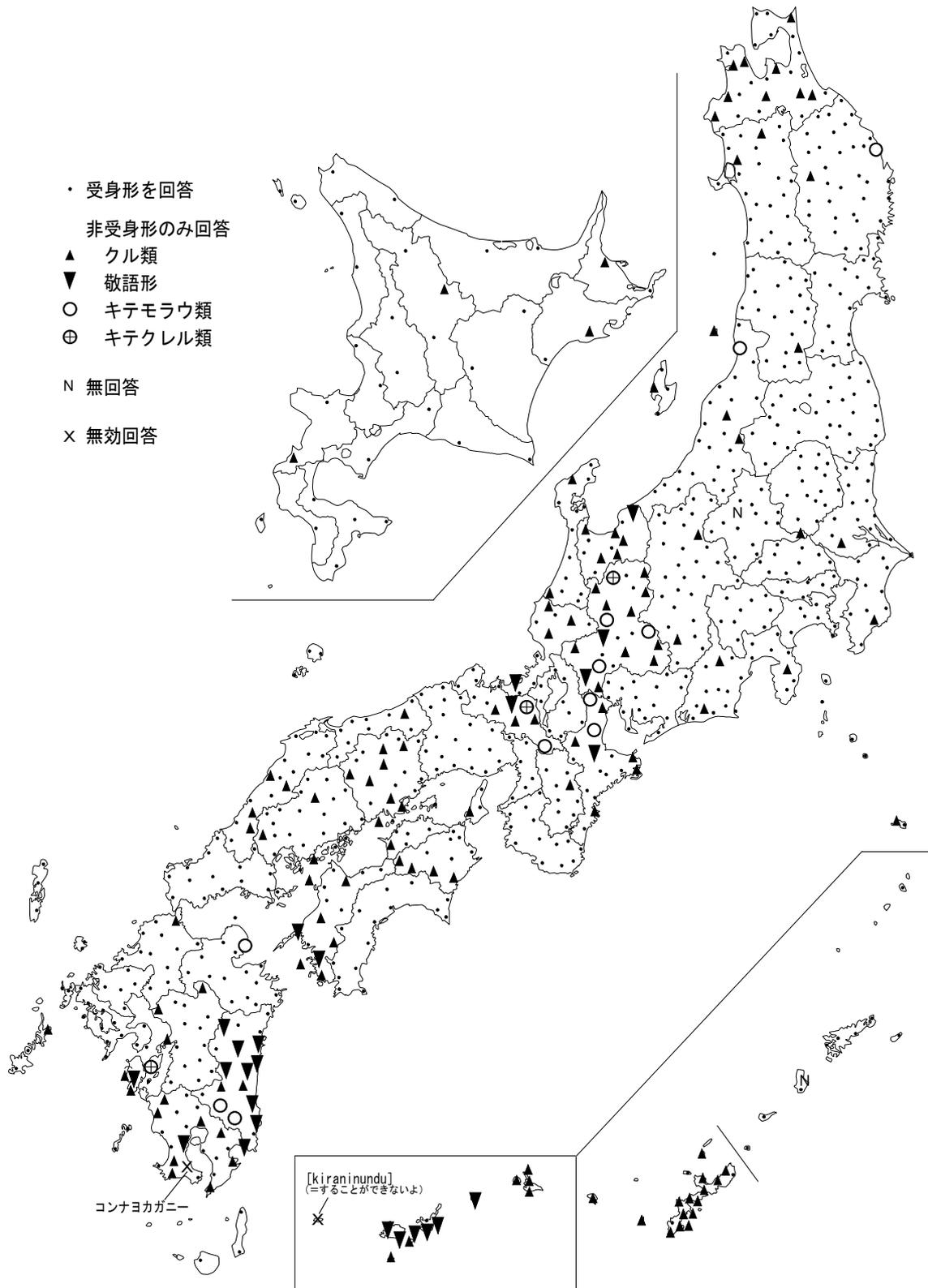


図2 GAJ116 図「留守のときに来られるとこまる」(日高 2002: 51)

要地方言活用体系記述 受身形

【活用表抜粋】

番号	要地方言	多段型 書く	一段型 見る	来る	する	多段型 特殊	二段型/三段型
01	北海道北見市常呂町岐阜方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
02	青森県五所川原市方言	カガイル	ミライル	コライル	サイル		
03	岩手県盛岡市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
04	宮城県仙台市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル スラレル		
05	秋田県由利本荘市本荘方言	カカエル	ミラエル	コラエル	サエル		
06	山形県山形市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
07	福島県福島市方言	カガレル	ミラレル	コラレル	(一段型)		
08	茨城県水海道方言	カカレル	ミラレル	キラレル	サレル		
10	群馬県藤岡市方言	カカレル	ミラレル	キラレル	サレル		
12	千葉県南房総市三芳方言	カーレル	ミラレル	コラレル	サレル		
13-1	東京都方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
13-2	東京都八丈島三根方言	カカレロフ	ミラレロフ	コラレロフ	サレロフ		
14	神奈川県大和市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
15-1	新潟県新潟市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
15-2	新潟県魚沼市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
16	富山県富山市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
17	石川県能登島方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
18-1	福井県大野市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
18-2	福井県坂井市三国町安島方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル	食う ッファレル	
19	山梨県甲府市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
20	長野県茅野市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
21-1	岐阜県高山市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
21-2	岐阜県岐阜市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
21-3	岐阜県中津川市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
22	静岡県湖西市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
23	愛知県新城市作手方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
25-1	滋賀県長浜市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
25-2	滋賀県湖東方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
26	京都府京都市方言	カカレル	ミラレル	コラレル キヤレル	サレル シヤレル		
27	大阪府方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
28	兵庫県神戸市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル		
30	和歌山県田辺市龍神方言	カカレル カカルル	ミラレル ミラルル	コラレル コラルル	サレル サルル		起きる オキラルル 起きる オキラルル
31	鳥取県倉吉市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル △シラレル △スラレル	死ぬ シナレル	
32	島根県出雲市平田方言	カカエー	ミラエー	コラエー	サレー	死ぬ スィナエー	
33	岡山県岡山市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル	死ぬ シナレル	
34	広島県三次市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル	死ぬ シナレル	
35	山口県東周防方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル	死ぬ シナレル	
37	香川県高松市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	セラレル		
38-1	愛媛県松山市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル	死ぬ シナレル	
38-2	愛媛県大洲方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル	いぬ イナレル	
39	高知県宿毛市方言	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル セラレル	死ぬ シナレル	
40-1	福岡県福岡市方言	カカルー	ミラルー	コラルー	サルー		
40-2	福岡県柳川市方言	カカルル	ミラルル	コラルル	サルル		食べる タバラルル
41	佐賀県武雄市北方方言	カカルッ	ミラルッ	コラルッ	サルッ		閉める シメラルッ
42-1	長崎県雲仙市南串山町鬼池方言	カカレル	ミラレル	(該当形 欠)	サレル サルル		投げる ナゲラルル
42-2	長崎県佐世保市宇久町方言	カカルル	ミラルル	コラルル	サルル		開ける アケラルル
44-1	大分県由布市庄内町方言	カカルル	ミラルル	キラルル	サルル	死ぬ シナルル	起きる オキラルル 開ける アケラルル

44-2	大分県日田市天瀬町方言	カカルル	ミラルル	コラレル コラルル	サルル サレル	死ぬ シナルル	起きる オキラルル 起きる オキラルル 開ける アケラルル 開ける アケラルル
46-1	鹿児島県鹿児島市方言	カカルツ	ミラルツ	コラルツ キラルツ	サルツ		受ける ウケラルツ
46-2	鹿児島県甑島里方言	カカルイ	ミラルイ	コラルイ	サルイ		止める ヤメラルイ

番号	要地方言	a類 持つ	b類 見る	来る	する			
47-1	沖縄県那覇市首里方言	ムタリーン	ン(-)ダリーン	クーラリーン	サリーン			
番号	要地方言	a1類 書く	a1類 読む	a1類 笑う	a1類 言う	a2類 居る	a3類 死ぬ	
47-2	沖縄県宮古島市 平良下里方言	カカイウ	ユマイウ	パライイウ	アイウザイウ	ウライウ	シウナイウ	
		b類 見る	来る	する				
		ミーライウ	クーライウ	《シウミライウ》				
番号	要地方言	三段型 (1-i) 書く	三段型 (1-ii) 乗る・登る	三段型 (1-iii) 形容詞の動詞化接辞	三段型 (2) 出す	三段型 (3-i) 買う	三段型 (3-ii) 思う	三段型 (4-i) 読む
47-3	沖縄県宮古島市 久松方言	カカレーツ	ヌーラレーツ	(該当形 欠)	イダサレーツ	カーレーツ	ウマーレーツ	ユマレーツ
		三段型 (4-ii) 眠る	三段型 (4-iii) 切る	一段型 (1) 探す	一段型 (2) 「来る」の敬語※	一段型 (2) 「する」の敬語、尊敬接辞	不規則 (r/ii) いる	不規則 (r/SP) ある
		(該当形 欠)	キツツァレーツ	トゥミラレーツ	(該当形 欠)	(該当形 欠)	(該当形 欠)	(該当形 欠)
		不規則 (ff/r) 降る	不規則 (r/ss) 知る・知っている	不規則 (n/i) 死ぬ	不規則 (z/SP) 来る	不規則 (ii/ss/SP) する		
		ツファレーツ/ フラレーツ	ツサーレーツ/ ツシューラレーツ	(該当形 欠)	(該当形 欠)	シーラレーツ		
番号	要地方言	多段一般型 書く	多段一般型 待つ	多段一般型 干す	多段一般型 取る	多段一般型 食う	多段特殊型 居る	
47-4	沖縄県多良間島方言	カカイリ*	マタイリ*	プシャイリ*	トゥライリ*	ファエイリ*	ブライリ*	
		一段一般型 見る	一段特殊型 死ぬ	来る	する			
		ミーライリ*	スニライリ*	クライリ*	シライリ*			
番号	要地方言	多段一般型 書く	多段r語幹型 踊る	多段特殊型 いる	二段型 出る	来る	する	
47-5	沖縄県竹富町黒島方言	ハカリル	(該当形 欠)	(該当形 欠)	(該当形 欠)	(該当形 欠)	シラリル	
番号	要地方言	三段一般型 書く	三段特殊型 洗う	一段型 開ける	不規則型 来る	不規則型 思う	不規則型 叱る	
47-6	沖縄県与那国方言	カガリルン	アラリルン	アギリルン	クラリルン	ウマリルン	イヤリルン	

【解説抜粋】

『全国方言文法辞典資料集(2)～(5)・(7)～(9)』掲載の「要地方言の活用体系記述」の動詞の〈受身形〉の記述を抽出し、用語等の統一をはかって再編集した。用例の出典については、元原稿を参照のこと。用例のあとに付した略号は受身文の種類を示す。

《直接》：直接受身文 《間接》：間接受身文 《持主》：持ち主の受身文

なお、以下の方言については、元原稿に〈受身形〉の記述が欠けていたため、執筆担当者による新規の記述が加わっている。

47-1 沖縄県那覇市首里方言（仲原穰）

01 北海道北見市常呂町岐阜方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹（＝語幹）に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・イエノ ヘーニ キタナイ エオ カカレル。
（家の塀に汚い絵を書かれる。）《間接》
- ・コロンダ トコロオ タローニ ミラレル。（転んだところを太郎に見られる。）《直接》
- ・キライジャッタ ハナコニ コラレル。（嫌いだった花子に來られる。）《間接》
- ・タローニ ヒドイ コトオ サレル。（太郎にひどいことをされる。）《直接》

（朝日祥之）

02 青森県五所川原市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「イル」が、一段型動詞は基幹（＝語幹）に「ライル」が、「来る」は「コ」に「ライル」が、「する」は「サ」に「イル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・クレバコンダ トロケラエルツキャ（来れば今度は片付けられるでしょ）[市史]《間接》

（田附敏尚）

03 岩手県盛岡市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹（＝語幹）に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。「レル」が「エル」と発音されることがある。

- ・くずすて書がれるづど、俺あ読めねえ。（くずすて書がれるというと、俺は読めない。）（中

谷 a・「くずす」）《間接》

- ・目下にも甘ぐ見られるよ。（目下の人にも甘ぐ見られるよ。）（中谷 b・「オッコオッコド」）

《直接》

- ・ボツと來られても、困るな。（いきなり來られても困るな。）（中谷 b・「ボツト」）《間接》
 - ・車ギタツと止めるづど、後続ぬ追突されるよ。（車を近づけて止めるといって、後続の車に追突されるよ。）（中谷 b・「ギタツと」）《直接》
- （竹田晃子）

04 宮城県仙台市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹（＝語幹）に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が付く。「する」は「サ」に「レル」を付けるか、「ス」に「ラレル」を付ける。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・シトヌ オサレデ コロンダ。（人に押されて転んだ。）[仙台方言]《直接》
- ・ソノ テガミ シトヌ ミラレデモ イーガ。（その手紙人に見られても良いか。）[仙台方言]《直接》
- ・猿のごったがら、なぞにすられるんだが、おっかなくて、おっかなくて泣いたんだ。（猿の（する）ことだから、どのようにされるのか、こわくて、こわくて、泣いていたんだ。）[民話：雉子と猿]《直接》

後に「テ」「タ」などが付くと、「レ」が促音化することがある。

- ・イヅマンエンサツバ ダサツテ ツリ ネガツタ。（一万円札を出されて釣りがなかった。）《間接》
- ・コッソリ サゲッコ ノンデットゴ ミラッ

夕。(こっそり酒を飲んでいるところを見られた)。《直接》

(武田拓)

05 秋田県由利本荘市本荘方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「エル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラエル」が、「来る」は「コ」に「ラエル」が、「する」は「サ」に「エル」が付く。「エル」「ラエル」は「レル」「ラレル」の r が脱落した形である。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・「歯いでも 医者さえぐな おもやみだ。いでぐさえるほが なげぐ待だしえらえるおの。」(歯が痛いけど、医者へ行くのが億劫だ。痛くされるほか、長く待たせられるもの。)

(本荘 a・「おもやみ」)《直接》

(日高水穂)

06 山形県山形市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。後に「テ」「タ」「カ」などが付くときは、「カカレタ」「サレテ」などの「レ」が促音化する。たとえば一段型動詞「見られた」は「ミラッダ」、「来られた」は「コラッダ」、「された」は「サッダ」となる。多段型動詞では次のように「タ(ダ)」が促音化する。

書かれた：カガレタ>カガッダ

嗅がれた：カガレダ>カガッダ

出された：ダサレタ>ダサッダ

立たれた：タダレタ>タダッダ

死なれた：シナレタ>シナッダ

飛ばれた：トバレタ>トバッダ

飲まれた：ノマレタ>ノマッダ

切られた：キラレタ>キラッダ

買われた：カワレタ>カワッダ

- ・[ゴミ置き場の] トー アケドクト、カラスニミナ カレル。(戸を開けておくと、鳥に全部食われる。)《間接》

- ・ホンテンナンダベガ。シンブンサ カガッタヨ。(本当なんだろうか？ 新聞に書かれて

いるよ。)《間接》

- ・おれは、お母さまがなくなった時、このような鉢かぶせらった。(俺は、お母さまが亡くなった時に、このような鉢を被せられた。)

(羽前・「鉢かぶり姫」上市市)《直接》

- ・ハダケシゴ[°] ド シッタラ、シャネウジニ トナリノ ヒトガラ ミラレタッケ。(畑仕事をしていたら、知らないうちに隣の人から見られていた。)《直接》

- ・イギナリ コラッダノヨー。タマケ[°] ダッケ。(いきなり訪問されたのよ。驚いた。)《間接》

- ・コダナ モノデワ バガニ サレツカモスンネ。(こんな物では馬鹿にされるかもしれない。)《直接》

- ・「あのような身分の低い女と、あまり親しくしね方がええんでないか」て、注意さっだんだど。(あのような身分の低い女と、あまり親しくしない方がよいのではないかと、注意されたのだそうだ。)(羽前・「鉢かぶり姫」上市市)《直接》

- ・風がファッと吹いて来たけあ、和尚さんのしゃっぽ吹つとばさった。(風がふわっと吹いてきたら、和尚さんの帽子が吹き飛ばされた。)(武田 5・「207 和尚と小僧」上市市)《直接》

(竹田晃子・澤村美幸)

07 福島県福島市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・ソー ユワレット キラレナイカラ(そう言われると切れないから)[幡 2005]《直接》

- ・ホダゴド イウド オゴラレツカンナイ。(そんなこと言うと怒られるからね。)[幡 2005]《直接》

〈断定過去形〉に示した規則にしたがい、さらに t 音を後接する場合は以下ようになる。

- ・クエツテ ユワツチャドギ(食えて言われた時)[幡 2005]《直接》

- ・ソレガ ブグワッチ(それが追いかけて)

[幡 2005] 《直接》

- ・はだがちやぐねえやづは(叩かれない奴は) [福島大 2015] 《直接》

(半沢康)

08 茨城県水海道方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「キ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・さうえ処(とこ)他人(ひと)に見られたらどうしたもんだえ(そういうところを人に見られたらどうしたものだろう。)[土]《直接》
- ・借りた丈の給金はみんな取つくる返(け)えされんよ(借りただけの給与はみな取り返されるのよ。)[土]《直接》

(佐々木冠)

10 群馬県藤岡市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「キ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・コンナ トコイ カカレチャー ヨワッター。 (このようなところに書かれては困ったなあ。)《間接》
- ・ヘンナ トコ ミラレチャッタ。(変なところを見られてしまった。)《直接》
- ・デガケニ ヒトニ キラレルト イソガシー。(出発する矢先に人に来られると忙しい。)《間接》
- ・ソレー サレチャー ヨワッター。(それをされては困ったなあ。)《直接》

(新井小枝子)

12 千葉県南房総市三芳方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。『方言で語る増間の昔話』の中には「ラレ」が「ラエ」で現れる場合がある。

・あんでこんあだ名がつけらえたかちゅうと、こん男(おとう)はとんでもねえ忘れっぽい男(おとう)だったからだ。(どうしてこのあだ名が付けられたかと言うと、この男は非常に忘れっぽい男だったからだ。)[増間]《直接》

・坊さんは、二人一緒に来られては困ったことになったと思ったけん、何(なに)食わねえ一顔ですましていたあだって。(坊さんは、二人一緒に来られては困ったことになったと思ったが、何食わぬ顔ですましていた。)[増間]《間接》

(佐々木冠)

13-1 東京都方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・おふくろに怒られるの。(集成)《直接》

(三井はるみ)

13-2 東京都八丈島三根方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レロワ」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレロワ」が、「来る」は「コ」に「ラレロワ」が、「する」は「サ」に「レロワ」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。断定非過去と同様、終助詞「ワ」が融合しているので分離せず記述する。

- ・イエノ ヘイニ ビショウ ドー イエゾウ カカレロワ。(家の塀に汚い絵を描かれる。)
- ・イソガシケ トキン イエーゲー コラレロワ。(忙しい時に家に来られる。)《間接》
- ・ハナコン コラレテ メーワクダララ。(花子に來られて迷惑だった。)《間接》
- ・ブッコロンダ トコウ タローニ ミラレタラ。(転んだところを太郎に見られた。)《直接》

(三樹陽介)

14 神奈川県大和市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動

詞は基幹 (=語幹) に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

「レル」「ラレル」の「レ」が「エ」になった「エル」「ラエル」や、「イ」になった、「イル」「ライル」もある。接続は「レル」「ラレル」と同じだが、断定非過去形ではあまり用いられず、断定過去形、中止形、完了の「チャッタ」が後続する形式などで使用される。カカイチャッタ (kak·a-i=cjaQta)、ミライチャッタ (mi-rai=cjaQta)、コライチャッタ (k·o-rai=cjaQta)。

- ・レベラレタラ タマンナイヨ (煽られたらたまらないよ) (方言1) 《直接》
- ・イッテコーナンテ ユワイテ (行ってこないと言われて) (方言2) 《直接》

(坂本薫)

15-1 新潟県新潟市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹 (=語幹) に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・カベニ エオ カカレル。(壁に絵を描かれる。) 《間接》
- ・サーメノニ マド アケラレタ。(寒いのに、窓を開けられた。) 《間接》
- ・タローニ ヒドイコト サレル。(太郎にひどいことをされる。) 《直接》

後ろに「テ」「タ」などが付くと「レ」が促音化することがある。

加藤正信 (1961) では、同じ中越北部方言の現三条市尾崎にて受身・可能・尊敬の古い形として「ッル (ラッル)」の形式があると述べられており、「ヨマッル」「ミラッル」「コラッル」などが記述されているが、筆者の内省および、調査を行った話者からは断定非過去形には促音形は確認できず、「ッタ (ラッタ)」「ッテ (ラッテ)」のように過去形、中止形のみにもみられた。

- ・コロンダトコロオ タローニ ミラッタ。(転んだところを太郎に見られた。) 《直接》
- ・イソガシノニ、イエニ コラッタ。(忙しいのに、家に来られた。) 《間接》

(三樹枝里)

15-2 新潟県魚沼市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹 (=語幹) に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・イエノ ヘーニ キッタネー エオ {カカレル/カカレタ}。(家の塀に汚い絵を {描かれる/描かれた。}) 《間接》
- ・ワケー ウチニ オヤニ シナレル。(若いうちに親に死なれる。) 《間接》
- ・タローニ ナガイ アイダ ヘヤニ イラレル。(太郎に長い間部屋にいられる。) 《間接》
- ・コロンダ トコロオ タローニ ミラレル。(転んだところを太郎に見られる。) 《直接》
- ・ハナコニ コラレタンダンガ メークダッタ。(花子に来られたので、迷惑だった。) 《間接》
- ・タローニ ヒドイ コトオ サレル。(太郎にひどいことをされる。) 《直接》

(吉田雅子)

16 富山県富山市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹 (=語幹) に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・どんだけしかられたもんやら。(どれだけ叱られたものか。) (藤木) 《直接》

(小西いずみ)

17 石川県能登島方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹 (=語幹) に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・いつなんどきニひきのキツネにあだくそされるかわからんもんで、タさんがた、きっとキツネらちや地蔵様のとこに来るやろうちゅうて、わざわざ地蔵様のとこに来たとい。(いつなんどきニひきのキツネに仕返しされる)

かわからないので、夕方、きっとキツネたちが地藏様のとこに来るだろうと言って、わざわざ地藏様のとこに来たという。(石川・「長西ギツネ」)《直接》

- ・長さんギツネや首をしめられたもんやさかえ、くるしくて、(長さんギツネは首をしめられたものだから苦しくて、) (石川・「長西ギツネ」)《持主》

(野間純平)

18-1 福井県大野市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をするが、過去形「～レタ」はレが促音化した「～ッタ」の形を取りうる。

- ・タローニ ミラレル。(太郎に見られる。)《直接》
- ・タローニ {ミラレタ/ミラッタ}。(太郎に見られた。)《直接》
- ・タローニ ナガイコト ハヤニ オラレテ ヨワッタ。(太郎に長い間部屋に居られて困った。)《間接》
- ・タローニ ヒデコト サレタ。(太郎にひどいことをされた。)《直接》
- ・カマトバニ クイツカッタ。(カマイタチに喰いつかれた。)[市史(中据)]《直接》
- ・コッポリ オコラッタ。(うんと怒られた。)[市史(石谷)]《直接》

(松倉昂平)

18-2 福井県坂井市三国町安島方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・エンメネ ツファイツカレタ。(犬に咬みつかれた。)《直接》
- ・バイネ ケツツォ カチマワサレタ。(棒で尻を叩かれた。)《持主》

(松倉昂平)

19 山梨県甲府市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

(吉田雅子)

20 長野県茅野市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・モット ハナシオ キコート オモッタニ
ヘー サケオ ノンデ ネラレチマッタ。
(もっと話を聞こうと思ったのに、もう酒を飲んで、寝られてしまった。)《間接》

(大西拓一郎)

21-1 岐阜県高山市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

(山田敏弘)

21-2 岐阜県岐阜市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

(山田敏弘)

21-3 岐阜県中津川市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・タワケタ コトバッカ ヤットルモンデ シカラレルンヤ。(ふぎけたことばかりしているから叱られるんだ。)《直接》
- ・キョー センセーニ ホメラレタ。(今日、先

生に褒められた。)《直接》

(野田太暉)

22 静岡県湖西市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・ハタケノ キューリオ イノシニ クワレ 夕。(畑のきゅうりをいのししに食べられた。)《持主》

(森勇太)

23 愛知県新城市作手方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・やかましくゆわれとるが、だだくさもない。(やかましく言われているが、(畑の作業は)たくさんもない。)《村誌》《直接》

(山田敏弘)

25-1 滋賀県長浜市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

(酒井雅史)

25-2 滋賀県湖東方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・「青年学校」へ行くのが義務付けられましたんやわ(「青年学校」へ行くのが義務付けられたんですよ)(武邑 p.128)《直接》
- ・目と耳を押さえる練習もさされたでな一(目と耳を押さえる練習もさせられたからねえ)(武邑 p.166)《直接》

(逸民誠)

26 京都府京都市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。「来る」「する」の場合は、「キ」「シ」に「ヤレル」が付いた形「キヤレル」「シヤレル」もある。この「ヤレル」は「ラレル」の r が j に変化したものと考えられる。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・法事がすんだあとで、ごっそうが出されてきたんやて。(法事が済んだ後で、ご馳走が出されてきたんだと)(京都・「一休さんのとんち」)《直接》
- ・そうや、気のみじかい殿さんやったら、打ち首にされてしまうこともあるんや。(そうだ、気の短いお殿様だったら、打ち首にされてしまうこともあるのだ)(京都・「お茶つぼ道中」)《直接》

(松丸真大)

27 大阪府方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

(野間純平)

28 兵庫県神戸市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・とおしに入れられたゴンゴロバチは、せまいのでおこって、ブンブンさわいでおる。(とおしの穴に入れられたゴンゴロバチは、狭いので怒って、ブンブン騒いでいる。)(兵庫・「たたかいでも鳴るたいこ」)《直接》

(酒井雅史)

30 和歌山県田辺市龍神方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」または「ルル」が付く。一段型は基幹に、二段型動詞は動詞によっ

てイ段形かエ段形に「ラレル」または「ラルル」が付く。「来る」は「コ」に「ラレル」または「ラルル」が付く形と「キ」に「ヤレル」が付く形がある。「する」は「サ」に「レル」または「ルル」が付く。「レル」「ラレル」の形は一段型動詞に準じた活用をし、「ルル」「ラルル」の形は二段型動詞に準じた活用をする。

-(ra)reru 形は一段型、-(ra)ruru 形は二段型であるが、2001 年調査では安定的に見られた -(ra)ruru は、2017 年調査では、中年層で使用意識がないだけでなく、高年齢でもかなり衰退していることが確認される。

キヤレルは 2001 年調査では、見られなかった形式である。キヤレルは可能形にも見られ、いずれもキラレルに由来すると考えられる。これは活用する接辞内で r と j の交替が起こるという点で、ヤン形が r 語幹化した否定形ランに由来するという説の傍証となる。「する」の場合はサレル s・a-reru/サルル-ruru、2001 年調査ではセラレル/セラルルが見られた。

- ・イエノ ヘーニ ラクガキヲ {カカレル/カカルル}。(家の塀に、落書きを書かれる。)《間接》
- ・コロнда トコロオ ヒトニ {ミラレル/ミラルル}。(転んだところを人に見られる。)《直接》
- ・トキドキ ヨル オソクニ アソビニ {キヤレル/コラレル/コラルル}。(時々夜遅くに遊びに来られる。)《間接》
- ・アイツニワ イツモ ヒドイコト {サレル/サルル/セラレル/セラルル}。(あいつにはいつもひどいことをされる。)《直接》

(西尾純二・澤村美幸)

31 鳥取県倉吉市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。「する」については、「サレル」だけでなく「シラレル」の形も一部見られるが、現在ではあまり一般的ではないようである。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・アソコノ コニ マジックデ エー カカレテナー。(あそこの子にマジックで絵をかかれてな。)《間接》
- ・ヒンガ ワリー トコロ ミラレチャッタ。(恥ずかしいところを見られてしまった。)《直接》
- ・ボクガ コドモノ トキモ アニッカラ オシエラレタリ シヨッタケネ。(僕が子供のときも兄貴から教えられたりしていたからね。)《直接》
- ・イタズラオ サレン ヤーニ ナッタ。(いたずらをされなくなった。)《直接》
- ・マー キツネニ ダマサレタ キツネニ ドガニ シラレタ チャナ コター(まあ狐にだまされた、狐にどんなにされたというようなことは) [国分寺]《直接》

(野間純平)

32 島根県出雲市平田方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レー (re-ru)」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレー (rare-ru)」が付く。しばしば、接辞中の r が脱落し、「エー」あるいは「ラエー」と実現する。また、「来る」は「コ」に「ラレー/ラエー」、「する」は「サ」に「レー」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・アスイ フマエタ。(足を踏まれた。)《持主》
- ・コギヤントコデ ネラエート ジャマダ。(こんなところで寝られると邪魔だ。)《間接》
- ・ズィブンドキニ コラエテ メーク スイチョーワ。(ご飯時に来られて、迷惑している。)《間接》

(平子達也・友定賢治)

33 岡山県岡山市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

(小島裕将)

34 広島県三次市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動

詞は基幹 (=語幹) に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・イエノ ヘーニ キチャナゲナ エオ カカレタ。(家の塀に汚い絵を書かれた。)《間接》
- ・コケタ トコー タローニ ミラレタエー。(転んだところを太郎に見られたよ。)《直接》

(小西いずみ)

35 山口県東周防方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹 (=語幹) に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・腕をへねきられた。痛うて痛うて。(腕をつねられた。痛くて痛くて。) (柳井・「へねきる」《持主》)

(船木礼子)

37 香川県高松市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹 (=語幹) に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「セ」に「ラレル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・タローニ サキニ イナレタ。(太郎に先に帰られた。)《間接》
- ・ナガイコト オラレタラ コマルゾー。(長い間いられたら、困るぞ。)《間接》
- ・ニヘン ウタレタノー、カンサイキニ。(二度、撃たれたなあ、艦載機に。) [A]《直接》
- ・トバサレテノー。(飛ばされてねえ。) [A]《直接》
- ・コロンダ トコロ タローニ ミラレタガ。(転んだところを太郎に見られたよ。)《直接》
- ・ハナコニ コラレテ メーワクダッタ。(花子に來られて、迷惑だった。)《間接》
- ・タローニ ヒドイコトオ セラレタ。(太郎にひどいことをされた。)《直接》
- ・ゼンゴワ サユー セラレル。(前後は左右される。) [B]《直接》

- ・カンサイキニ ネライウチ セラレテノー。

(艦載機に狙い撃ちされてねえ。) [A]《直接》
なお、使役受身形は、前述の使役形の「ス」「サス」に受身形を後接させた形になる。

- ・ムリヤリニ イカサレタ。(無理矢理に行かされた。) [A]《直接》
- ・ソレデ オラサレテ。(それで、いさせられて。) [A]《直接》
- ・オボエササレタ。(覚えさせられた。) [B]《直接》

(乙武香里)

38-1 愛媛県松山市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹 (=語幹) に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・ワカイ ウチニ オヤニ シナレル。(若いうちに親に死なれる。)《間接》
- ・ハナコニ コラレル。(花子に來られる。)《間接》

(久保博雅)

38-2 愛媛県大洲方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹 (=語幹) に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・タローワ センサーニ サキ ナマエ ヨバレタゼ。(太郎は先生に先ほど名前を呼ばれたよ。)《持主》
- ・イヌニ ジーット ミラレルンジャケン。(犬にじっと見られるのだから。)《直接》

断定非過去形をはじめ、受身を含む動詞語形を、カク/kak-/「書く」を例に下表に示す。

受身断定非過去	カカレル「書かれる」
受身断定過去	カカレタ「書かれた」
受身否定非過去	カカレン「書かれない」

(宮岡大)

39 高知県宿毛市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動

詞は基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。「する」には「セラレル」という、r 語幹化した形もある。受身形は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・弥七は、友だちみんなあから、ののしられてしょんぼりしてしもうたと。(弥七は友だちみんなから罵られてしょんぼりしてしまったそうだ。)(昔話・幡多郡佐賀町・「えんこうずもう」)《直接》
- ・「そうかえ、そりゃえらいことになったのう。して、どうして、手をくくられたがぞ。」(そうか、それはえらいことになったねえ。で、どうして手をくくられることになったんだ。)(昔話・中村市有岡・「えんこ」)《持主》
(松丸真大)

40-1 福岡県福岡市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ルー／ルル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラルー／ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラルー／ラレル」が、「する」は「サ」に「ルー／ルル」が付く。受身形は二段型動詞に準じた活用をする。使用頻度は「ルー」のほうが高いのではないと思われる。ただし若年層ではこれらの形式は全く使用されなくなっており、「カカレル」「ミラレル」「コラレル」「サレル」のように共通語と同形になっている。

- ・また悪口は{言わる／言わる／言われる}ばい。(また悪口を言われるよ。)(直接)
(平塚雄亮)

40-2 福岡県柳川市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ルル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に、「ラレル」が付く。「来る」は「コ」に「ラレル」が、「する」は「サ」に「ルル」が付く。

- ・カベニ エバ カカレル。(壁に絵を描かれる。)
《間接》
- ・ノートバ ミラレル。(ノートを見られる。)
《持主》
- ・ソゲン ユーテ ホメラレル。(そう言って褒められる。)(直接)
- ・ソゲンカ ソプリバ サルル。(そんな素振り

をされる。)(《間接》

・キューニ コラレル。(急に来られる。)(《間接》
受身形は二段型動詞に準じた活用をする。過去の例を、以下に示す。

- ・エバ カカレタ。(壁に)絵を描かれた。)(《間接》
(松岡葵)

41 佐賀県武雄市北方方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ルッ」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に、二段型動詞は基幹エ段形に「ラルッ」が付く。「来る」は「コ」に「ラルッ」が、「する」は「サ」に「ルッ」が付く。受身形の活用は現段階では不明である。

- ・カカルッ。(書かれる。)(《間接》
- ・オラルッギン コマー。(いられると困る。)(《間接》
- ・ヒトカラ ミラレタ ゴター。(人に見られたようだ。)(《直接》
- ・コラルッ。(来られる。)(《間接》
- ・サルッ。(される。)(《直接?》
(原田走一郎)

42-1 長崎県雲仙市南串山町鬼池方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に、二段型動詞は基幹エ段形に「ラレル」が付く。ただし、多段型では「ルル」、一段型と二段型では「ラレル」を付すこともある。「する」は「サレル」と「サルル」の2形式がある。なお、「来る」の受身は言えないようである。

- ・イエン ヘーニ ヨソワシカ エバ カカル
ッバイ。(家の塀に汚い絵を描かれるよ。)(《間接》
- ・カワッタ ナマエヤケン オイノ シラン
モンニモ ナマエバ {オボエラレル／オボ
エラレル}。(変わった名前だから、自分が知らない人にも名前を覚えられる。)(《持主》
- ・ヨゴレモンワ ワケルトトニ カッテニ {マ
ゼラレル／マゼラレル}。(汚れものは分けて
いるのに、勝手に混ぜられる。)(《間接》
- ・タローニ ヒドカ コトバ {サレル／サル
ット}。(太郎にひどいことを {される／され

るの。)《直接》

(野田智子・東出朋)

42-2 長崎県佐世保市宇久町方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ルル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に、二段型動詞は基幹エ段形に「ラルル」が付く。「来る」は「コ」に「ラルル」が、「する」は「サ」に「ルル」が付く。受身形は二段型動詞に準じた活用をする。

- ・ケーコ サセラレヨートヨ。(稽古させられているのよ。)《間接》
- ・タローガ ジローカー タタカレタ。(太郎が次郎に叩かれた。)《直接》

(門屋飛央)

44-1 大分県由布市庄内町方言

〈受身形〉

多段一般・特殊型動詞の基幹ア段形に「レル」、一段型動詞の基幹、二段型動詞の基幹エ段形、三段型動詞の基幹イ段形に「ラルル」が付く。「来る」は「キラルル」、「する」は「サルル」が用いられる。受身形は二段型動詞に準じた活用をする。

- ・モンク イーニ キラレタ。(文句言いに来られた。)《直接》
- ・ムカシャー ジョークューサーニ ワヤクオ サレタ。(昔は上級生にいじわるをされた。)《直接》

(松田美香)

44-2 大分県日田市天瀬町方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ルル」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に、二段型動詞は動詞によって基幹イ段形またはエ段形に「ラルル」を付ける。「来る」は「コラルル」、「する」は「サルル」が用いられる。受身形は二段型動詞に準じた活用をする。「レル」「ラレル」は、「ルル」「ラルル」の新しい形として用いられる。

- ・コケタ トコロー タローニ {ミラルル/ミラレル}。(転んだところを太郎に見られる。)《直接》
- ・タローニ ヒジーコツ {サルル/サレル}。(太郎にひどいことをされる。)《直接》

(松田美香)

46-1 鹿児島県鹿児島市方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ルッ」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラルッ」が、二段型動詞はエ段形に「ラルッ」が、「来る」は「コ」に「ラルッ」が、「する」は「サ」に「ルッ」が付く。「来る」は「コラルッ」のほかに「キラルッ」もある。受身形は二段型動詞に準じた活用をする。

- ・トモダンニ ワレコチョ サレタ。(友だちに悪いことをされた。)《直接》

(平塚雄亮)

46-2 鹿児島県甑島里方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「ルイ」が、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ラルイ」が、二段型動詞はエ段形に「ラルイ」が、「来る」は「コ」に「ラルイ」が、「する」は「サ」に「ルイ」が付く。受身形は二段型動詞に準じた活用をする。

- ・マタ ワルグチバ ユワルイドー。(また悪口を言われるよ。)《直接》

(平塚雄亮)

47-1 沖縄県那覇市首里方言

〈受身形〉

首里方言では基本語幹の基幹ア段に「リーン」(または「リユン」)(~れる)が後接する(なお、連体では「リール」、中止では「リヤーニ」「ッティ」、断定過去では「ッタン」、継続では「ットーン」が後接)。

當山奈那(2014b)によれば、首里方言には「してもらう」相当形式が欠如し、直接受身の利益性については中立的であり、間接受身(第三者受身)になりにくい特徴があるという。そのため、迷惑性を表現する場合は受動文ではなく「第三者主語の使役文」を用いるとし、「第三者主語の受動文と類似する構造をもつ〈非意図的放任〉や〈放任=不本意〉の使役文がこの領域を担う」と述べる。

なお、首里方言の使役が間接受身として用いられることについて、津波古敏子(1997「琉球列島の言語(沖縄中南部方言)」:381)で首里方言の使役について以下のような言及がある。「主語が間接指示者の場合、使役は二重になる。使役の行為者は、利益を受ける主体である。このこととかかわって、使役性が弱まると、「やりもらい」の表現へ移行する。たと

えば、'waNne: siNsi:kai nici hakaracaN. 「私は先生に熱をハカラセタ(はかってもらった)」のように、この表現は、沖縄方言圏内で育った人たちの使う標準語に干渉していて、県外の人たちからは、しばしば誤解を受けるもとになっている。」(下線は引用者)

- ・クレー ターリーンカイ スグラッティ ナ
 チョーイビーン (こいつはおとうさんに殴られて泣いています。) (入門) 《直接》
- ・アリンカイ イシ ナギリタタン (彼に石を投げられた。) (入門) 《直接》
- ・「くぬ人(ちゅ)が めんそーらんだらー、私(あん) ねー 命(ぬち) 切(ちり)るか殺(くる)きりーしが、良時(ゐーばす) くぬ人(ちゅ)がめんそーち、私(わん) ねー 助(たし) きらっとーん」(「この方が居なければ、私は、命がなくなる程なぐられて殺されるところだったが、ちょうどよい時にこの人が来て、私は助けられたのだ」)(民話「武士松茂良の田舎下り」) p.127 《直接》 ※直訳では「助けられている」
- ・髪(からじ) びかーじ、乳母(ちーあん) に 拝見(うが) まっていさくとう (髪だけが乳母に見られたので)(民話「普天間権現の由来」) p8 《直接》 ※直訳では「拜まれて」
- ・クヌ ユイショ アル イチグシクヌ イー
 ガラ ヒャクショー 'イナグヌ ナチュール
 ックアンカイ シミール クトゥー
 イカナシン ナラン。(この由緒ある池城の家柄を百姓女が生んだ子=につがせることは絶対にいけません)(當山 2014b : 24 「沖縄首里方言の使役動詞と他動性」用例 ※仮名書きに改めた)

(仲原穰)

47-2 沖縄県宮古島市平良下里方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「イイウ」(「れる」に対応)が付く。一段型動詞、「来る」は、それぞれ「ミライイウ」、「クーライイウ」のように「ライイウ」(「られる」に対応)が付く。「する」の受身は「シミライイウ」が用いられる。

- ・シンシーン ナーユ カカイイウ (先生に名前を書かれる)。《持主》

- ・シンシーン シウカモー シウミライイウ (先生に仕事をさせられる)。《直接》

(中本謙)

47-3 沖縄県宮古島市久松方言

〈受身形〉

動詞の受身形は、V_{III}は基幹3に「-レーヅ」が付き、V_Iは基幹3に「-ラレーヅ」がつくことによって形成される。ただし、「-ラレーヅ」がV_{III(2)}のr語幹動詞(「ヌーヅ(乗る)」、「トゥヅ(取る)」、「ウー/ウヅ(いる)」、「ツシュー(ツ)(知る)」)につく場合は、基幹3の「ラ」が脱落することが多く、V_Iにつく場合は、「-ラレーヅ」の「ラ」が脱落することが多い。また、「-(ラ)レーヅ」はV_Iの活用パターンに準じて活用する。

- ・タローヤ ウトゥトウンドウ タタカレータ
 二。(太郎は弟に叩かれた。) 《直接》
- ・コーラヤ ウトゥトウンドウ {トゥラレー
ター/トゥレーター}。(コーラは弟に取られた。) 《直接》

なお、いわゆる間接受身(迷惑受身)は基本的に作れないが、「ツファレーター/フラレーター(降られた)」のように、作れるものもわずかにある。ただし、不規則動詞「降る」の場合は、ほかのr語幹動詞のように、「ラ」が脱落した「フレーター」という形式はない。

- ・×ヤマグンカイ ヅヅァレーター。(意図：泥棒に入られた。) 《間接》
- ・アミンカイ {ツファレーター/フラレータ
二/×フレーター}。(雨に降られた。) 《間接》

(陶天龍)

47-4 沖縄県多良間島方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「イリ°」(異形態「リリ°」)が付く。一段型動詞は基幹(=語幹)に「ライリ°」(異形態「ラリリ°」)が付く。共通語の「れる」に対応する接辞であり、もともとの形は「リリ°」の方だと考えられるが、/r/の脱落した「イリ°」の方が多くられる。「来る」は「クライリ°」、「する」は「シライリ°」となる。

- ・スグトゥーバ クマヤキタカー ブミライリ°
 ドー (仕事は丁寧にしたら褒められるよ) 《直接》

- ・アガイ、ヌーガ シューズーガ、-ムメ ウリ°
ン ファーイバドゥ (ああ、どうしようか、
もうこいつに食われたら) [民]《直接》
(下地賀代子)

47-5 沖縄県竹富町黒島方言

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「リル」が、二段型動詞は基幹イ段形に「ラルル」が付く。受身形は二段型動詞に準じた活用をする。

- ・パナシユ シカリタ。(話を聞かれた。)《持主》
- ・バツシラリル。(忘れられる。)《直接》

なお、黒島方言においては厳密に他動詞しか受け身にできない。

(原田走一郎)

47-6 沖縄県与那国方言

〈受身形〉

受身形は、他者からの動作の受け取り、すなわち、受身を表す。迷惑の受身等の、受影(動作・変化によって引き起こされる付随的な影響を受けること)を表すこともある。尚、受身形は、条件可能を表す形と同じである。尊敬の意味を表すことはない。

受身形は、三段一般型の r 語幹動詞と同じように活用する。但し、第二過去形は、「-arjan/-arun」のように活用する。

- ・トゥムルチャ カリニ ナギリリヤン/ナギリラン。(「相撲で」一度あいつに投げられた。)《直接》

三段一般型の受身形は、基幹ア段に「リルン」を後接させた形である(語幹に-arirunを後接させる)。

ヌムン(飲む)ヌマリルン(飲まれる)

但し、s 語幹動詞の受身形は、sa が脱落して音韻変化した結果、異なる形で活用する。この変化過程は、否定形の場合と同じようなものであると考えられる。違うのは構成要素「ヌン」であって、「ヌン」を「リルン」に変える。

語幹の前の母音が a の場合、基幹ア段 sa を脱落させた後、語幹の前の母音 a に「リルン」を後接させる、あるいは、断定非過去形の「ン」を「リルン」に変えるという手続きをとって使用することができる。

ダンダン(壊す)ダンダリルン(壊される)

語幹の前の母音が u の場合、基幹ア段 sa を脱落

させた後、語幹末子音の前の母音 u を a に変えて、合拗音化させたもの、さらに直音化させたものに「リルン」を後接させるという手続きをとって使用することができる。

ウトウン(落とす)ウタリルン(落とされる)

フン(干す)ファリルン(干される)

三段特殊型の受身形は、三段一般型に準じる。

アルン(洗う)アラリルン(洗われる)

クン(買う)カリルン(買われる)

フン(食べる)ハリルン(食べられる)

一段型は、受身形でも r 語幹化している。そのため、一段型の受身形は、三段一般型の r 語幹動詞の場合に準じる。

ンニルン(死ぬ)ンニラルルン(死なれる)

ウギルン(起きる)ウギラルルン(起きられる)

アギルン(開ける)アギラルルン(開けられる)

キルン(する)キラリルン(される)

不規則な活用型の動詞の場合では次のようになっている。

ブン(居る)ブラリルン(居られる)

クン(来る)クラリルン(来られる)

イルン(やる)イラルルン(やられる)

ウムン(思う)ウマリルン(思われる)

イユン(叱る)イヤリルン(叱られる)

- ・イヤニ ムタカリルンドー。(お父さんに怒られるよ。)《直接》

- ・マユンキ マタ ハリルンドー。(猫にまた食べられるよ。)《直接または持主》

(目差尚太)